Genius English Course Ⅰ,Ⅱ Revised

スラッシュ・リーディングを使った指導はこんなふうに

石黒弓美子

◆スラッシュ・リーディングとは何か

スラッシュ・リーディングとは同時通訳の訓練で使われる英語のすみやかな理解と訳出能力を鍛える方法の１つです。従来のように英語の文を最後まで読み終えてから文全体の意味を理解したり訳出したりするのではなく，短い意味の固まりごとに出てきた順に理解を成立させて，文が終わると同時に文全体の意味を把握するという訓練です。英語と日本語は語順がほぼ逆ですが，文を最後まで読み終えてから全体の意味を考えていたのでは，いつまでたっても英語のすみやかな理解は成立せず，同時通訳の現場ではとても仕事をしていけないというところから考え出された手法です。「順送りの理解」とか「頭ごなしの情報処理」とも呼ばれます。最近はそれが英語の理解力向上に効果があると認識され，一般の学校現場でも使われるようになってきているようです。

◆その方法

方法は単純で，以下のとおりですが，まず，先生が自分で実際にやってみることが重要だと思います。筆者も通訳学校等で教えるときは，事前にまず自分でやってみます。すると，日本語に置き換えにくいところが見えてきます。だいたい生徒も同じところで訳出に苦労します。自分で事前にやってみてこそなぜ難しいのかがわかりますから，生徒の立場に立った，より適切な指導ができます。

1．英語の文に意味の固まりごとにスラッシュを入れる（文中のスラッシュは１本［/］，文の終わりには２本［//］）。
2．目で文を追いながら，スラッシュを入れた意味のかたまりごとに順に日本語に置き換えていき，文末で文意の理解を完結する。

意味を把握することが目的なので，置き換えた日本語はある程度不自然な日本語でもかまいません。しかし，慣れてきたらだんだんと工夫してできるだけ自然な日本語に置き換えるよう努力するとよいでしょう。通訳訓練では，当然，最終目標を「自然でわかりやすい日本語への訳出」におきますが，通常の英語学習であっても，同じことを目指すならより適切な英語の理解につながるでしょう。

スラッシュの入れ方に厳密なルールはありません。読んでいて目にすっと１つの意味の固まりとして入ってくる単語の連なりごとにスラッシュを入れていけば良いでしょう。

例えば，次の文は下に示すようなスラッシュの入れ方と日本語への置き換えが可能です。

I once traveled through China / with a group / that included a six-month-old baby / called Melanie. //

（私は）かつて中国各地を旅行したことがあります / あるグループと一緒で / その中には６か月の赤ちゃんもいました / その子はメラニーといいました。 //

（　　）は場合によっては訳出が不要な部分です。英語の句の訳出は，日本語では，文にしても句としてもかまいません。ちなみに，この例文を「私はいつかメラニーという6か月の赤ちゃんを含んだグループと一緒に中国を旅行しました」という従来よく見られた訳文と比べてみてください。順送りの理解の置き換えの方が日本語としても自然でわかりやすいことが一目瞭然だと思います。また意味のかたまりごとに理解を成立させるということがどういうことかわかっていただけたでしょう。このように出てきた順に情報の理解を積み重ね，すみやかに文全体の意味をとらえる訓練方法の1つがスラッシュ・リーディングです。

◆指導用CD-ROMに収録されているスラッシュの入れ方の例と訳例の使い方

まずは以下の手順で先生がやってみます。生徒はスラッシュの入れ方も訳出も，最初はどうしてよいかわからないでしょうが，まずはやってみることが大事です。先生もやってみると，何がわかりにくいのかがわかります。よくわからないことがわかることも，その後のコツのつかみ方，また指導方法の発見につながります。最初から手本を見てしまっては，逆にいつまでもコツがつかみにくいのではないかと思います。初めて訪れる場所を尋ねる時，人に案内してもらうより，自分で地図を見たり人に聞いたりしながらたどり着いた方が，しっかり道順を覚えるのと同じです。

1．まず教科書の本文の部分（教科書に書き込みたくない場合はコピーをとったもの）にスラッシュを入れてみる。
2．スラッシュを入れた部分を，文頭から順に口に出して日本語に置き換えていく。
3．自分の理解と日本語を，添付のスラッシュ例と訳例と比べてみる。
4．どうしてもスラッシュを入れるコツがつかみにくければ，スラッシュ例を使って日本語への置き換えをやってみる。
5．慣れてきたら，自分でスラッシュを入れて，日本語への置き換えをする。最初は不自然な日本語でもよい。正しく意味が取れているかどうかを確認する。
6．さらに慣れてきたら，動詞の訳出を後に残すなど，より日本語らしい置き換えに挑戦してみる。
7．自分の日本語と訳例とを比べて，どこがどう違うかを考察する。必ずしも訳例がベストとは限らないことを銘記して，自然な日本語への訳出を試みる。

以上のような手順で，今度は生徒にもやらせます。練習を重ねながら，英語の日本語への置き換えはことばそのものの置き換えではなく，意味を置き換えることだという点に気づくことが順送りの訳のコツだと指導します。前出の英文の例で見るならば，「a group that included ～」は「～を含むグループ」と訳していては以前と同じ逆順送りであり順送りの理解は成立しません。前から順に「グループの中にいた」と理解することが大切だと気づかせます。includeは必ずしも「含む」ではないということを指摘することもできるでしょう。

そして生徒の理解度と意欲のレベルによっては，先生がCDの操作をし，生徒に聞かせながら，スラッシュを入れた部分で一時停止し，生徒は教科書を見ないで，聞いた部分を日本語に置き換えるという練習に挑戦させることもできるでしょう。ポーズ入りの擬似同時通訳の練習になります。さらに途中一時停止をしないで英語を聞きながら日本語にどんどん置き換えていくことができるようになれば，本物の同時通訳です。段階的にこうしたさまざまな練習に挑戦していくことで，英語のスムーズな理解が進み，同時に英語の学習がどんどん楽しくなるのではないかと思います。

（いしぐろ　ゆみこ・会議／放送通訳者）